

## H18年12月 一般質問より

### ◆地方自治法の改正について

副市長制度導入により助役・収入役のあり方と複数副市長制を採用するのか。

また、現在の教員住宅を一般市民へ貸し出し出来るのか質問しました。

### ◇市長・理事者答弁

本市では副市長を複数とし、大型事業の推進はじめ合併後の諸問題調整など重要施策に対し、迅速に処理することが住民サービスの向上に繋がると判断しているが当初は1名とする。教員住宅は直ちには無理であるが検討する。

### ◆市立八幡浜総合病院経営について

単年度純損失4億8千万円、欠損金累計約10億円の市立病院の今後の見通しと、看護師の資質向上、医師確保の現状、病院改築の方向性等について質問しました。

### ◇市長・理事者答弁

医師不足による患者減少から厳しい経営状況であるが、市民要望の安心・希望に満ちた町づくりには欠かせない存在である。

今後一般会計からの繰り出しにも理解いただけると考える。

医師確保は全国的に地方の課題となってきた。関連大学医局への強力な派遣要請をはじめ、民間からの斡旋やホームページでの募集などしているが実現していない。病院の改築は広域化・PFIの導入・財源問題等を含めて調査検討を進め早期実現を目指したい。

### ◆ごみ処理費用について

ごみ処理費用に係わる指定ごみ袋の値段設定が本来の目的、ごみに対するコスト意識、ごみの量に応じた費用負担、循環型社会の形成という観点から逸脱しているのではないか、またごみ袋の適正な大きさについても所見を求めました。

### ◇理事者答弁

合併協議会において最後まで協議を重ねた問題であり、合併後は保内町の例により現在に至っている。今後、販売価格はごみ減量対策の観点から適正料金を検討したい。ごみ袋の大きさについては効率的な種類の作成も含め今後の研究課題としたい。

### 編集後記

#### ■水が水押しして噴水高上がる

この句は、今は亡き丸山いわを伯父から最初の選挙出馬の際に掛け軸にしていたものだ。選挙という新しい世界に挑戦するにあたり、いろいろと思いが込められた贈り物であったように思います。今年、県知事選挙から始まって、県議選挙、参議院選挙と続く選挙の年です。選挙があるこの句を思い出します。

■水が水を押すように、人が人を押して人が選ばれるのだと思います。選ぶ人も選ばれる人もお互いが責任を持って選挙に臨み価値あるものになればと思います。

■昨年12月2・3日と全国人権・同和教育研究大会に初めて参加しました。とても素晴らしい報告が多数あり、すぐ勉強になりました。その中の講演で島崎藤村の「破戒」が取り上げられたものがありました。日本の現代文学には興味が無く読んだことも無かった訳ですが、これも何かの縁であること、島崎藤村集を購入し読んでみる事にしました。

■読み終えて内容にかなりの衝撃を受けましたが、被差別部落出身ということでの差別問題が現実存在している事に、激しい憤りを感じました。差別する人も差別を受ける人も同じ人間なんですから……

■これからも、人と人とのコミュニケーションを大切に考え、責任ある行動・活動を目指して日々努力していきたいです。